

幼稚園の音楽

東京女子高等師範學校附屬國民學校訓導 小 菅 和 江

元來幼稚園といふものは之をはじめたフレーベルの意見に従ふに、國民學校入學以前の幼兒を自然界と人間界とに導き其本性に適應する活動をなさしめ、身體を強健にし感覺を練習し、心情を誘導鍊磨して神の命に近からしむるこゝろにあつた。つまり、家庭と學校との中間の時代に於ける兒童を教育するところで、國民學校入學以前の多くは三歳から六歳迄の幼兒を教育する場所と考へられてゐる。

従つてその教育の仕方は學校的であつてはならない。むしろ家庭的でなければならぬ。

教師も又レローバルでなくてヌルスバル(保姆)でなくてはならない。故に幼稚園教育を *Playes*(保育)といふのは斯うした意味からである。そこで扱はれる教材は、フレーベルの言ふ如く、教へるこゝろよりも遊びの中に於て幼兒を自然界と人間界とに導くのであるから、種々な運動又は音楽を主體としたものになるのである。フレーベルは遊びとして *Gift*(恩物)の制度を考案した。國民學校に

於けるが如く手工をしないで手の遊びの中に物を構成する事を教へる。然かも、自分の創作物を飽く迄も自分で作つたものとして母親に手傳つて貰ひ、それを賞與してその作つたものを兒童に與へさせてゐる。

元來斯うした理念のこゝろに出来上つた教育機關であるが故に、音楽の教材を取扱ふ場合にも之を學校的に見做す事は出来ない。即ち國民學校に於ける教科目は一定の進度を以て配列されたものであるが、幼稚園に於ては遊びの背景として又、その遊び自身が立體化され、自分が唯保姆によつて遊ばされてゐるこゝろに氣持から更に積極的に友達と有機的に結び合つて遊ぶこゝろに状態に迄導入する。而して、その立體的な状態に迄導入する爲めの音楽であるのであつて、立體音楽でなければならぬ。つまり、技術的のものでなく理智と感情の生活そのものを立體化する爲めの立體音楽でなければならぬ。

幼稚園の音楽は技術として教へるこゝろよりも、幼兒をしてその本然の姿にかへらしめる爲めの手段であつた。兒

童が純粹な兒童精神に復歸するには遊戯を以て最上の方法と考へられてゐる。シルラーは「人間が遊戯するところ唯、其處に於てのみ全的に人間である」と言つてゐるが、遊戯はなほ一つの不純な要素によつて濁らされてゐる。何故ならば其處に於て競争意識と、仲間同志に對する一つの牽制感によつて妨げられてゐるからである。ところが音樂になる子供らしい氣分や、表象(色んな考へ)が最も自然に開放され、その Schilling (鍵) を通して子供の本質が解き放たれ、音樂的に方向づけられた人間として否、音樂そのものに迄昂揚される様になる。而乍ら、單なる技術としての音樂は子供をして斯くの如き純粹性に迄高めぬ事はない。

何故なれば技術は人間から蒸發した籐(かね)のであるからである。

註、アメリカの Macdowell は Sonata を書く場合に Sonata の形式が生きた人間の感情を抑へるのでそれは「鐵の寢臺に等しい」と言つた。「鐵の寢臺」は「人間の背の高さに自己(寢臺)をあはせるために生きた人間の足を切る事を要求する」と言つた。即ち、人間を捉縛するものを「かねの籐」と言つた。

中世時代には各教會のコーラスボーイを養成する學校がその教會のうしろに建てられてゐたものであるが、その子供達は朝から晩迄この子供の生活から遠い音樂の技術に

よつて苦しめられたのであつた。彼等は齊しく皆音樂の室を嫌つて「音樂室の隣りには地獄がある」と怖れ戰いてゐた。斯うした技術としての音樂は幼稚園の爲めには有害にこそなれ、全く意味なきものであつた。

我國で初めて幼稚園を開いたのは西曆一八七六年の事であるが、その他の音樂以外の遊戯や、兒童の取扱方法等においては甚だ見るべきものがあるけれ共、特に音樂については殆んぎ國民學校のそれと大差がないのである。或場合に於ては幼稚園用の歌曲の方が難かしい場合さへ發見する事がある。

三歳から六歳までの子供程音樂に對して敏感なものはない。彼等は他の種々な物事に捉はれて居ても、音樂の雰圍氣の中に置かれる時は直ぐに自由になり、眞の子供らしさを取戻してしまふものである。幼稚園に於ける音樂は

(1) なるべく單純な音樂である事
(2) Spiel (遊び) の様に朗かで陽氣である事
(3) 妙な教訓的な歌詞をもつ事はさける事

(4) 自然の花や、蟲や、空や、風等に注意を向ける爲めにさうした自然物を取扱つた歌詞と、自然の中に發見出来る音聲を模倣した音樂、例へば、ブンプンブンプンと言ふ蜂の歌、カッポ、カッポ、カッポ、カッポといふ馬のリズム、風のヒュウ、ヒュウといふ音等を取入れたもの

がよい。

(5)それも順次的に平易なものから更に進んだものへ、極めて少しづゝ變化してゆく事もよいのであつて、必ずしも技巧的の進歩は幼稚園では要求しないもの云つてよい。

斯様にして幼稚園の音楽は Spiel としての音楽である故に、なるべく目で見乍ら、足で踏み乍ら、全身を揺り動かし乍ら唱歌する様式の音楽を最上とする。目でみることは例へば、「花」の歌をうたふならば、花を前に見せ乍らうたふ事であり、手を叩き、體をゆすぶり乍らうたふ事をいふのである。

即ち、リズム音楽、リズム的教育、運動、言葉、音楽、繪畫を一つに迄綜合せるものを與へて、彼等の人格的な發達、全體的人格、有機的統合に迄齎さなければ幼稚園音楽の窮極目的は達せられないと思ふ。

紙數の都合で、國民學校令實施に伴ふ幼稚園音楽の具體案に迄申述べられなかつた事を遺憾に思ふが、何れ又、紙を改めて發表したいと思つてゐる。

以上

軍神

逗子八郎

そのこゝろきくに涙のあふれきてしばしいひ
つぐ言の葉もなし
生還はいまだ難きにあらざりきわはれなるか
や益良雄のみち
敵戦艦屠りしあとに浮びいで、今生の月と仰
ぎたりけむ
今生も後生もおなじうつそみのいのちはのち
も大君のため
猛勇のその人にして親おもふこゝろあつしと
きくに哭かるゝ

(三月八日東京日々所載)